

★認定看護師を目指そうと思ったきっかけ

認定看護師という存在を知ったのは看護学生の時、泌尿器科の実習中でした。ストーマケアについて病棟看護師が相談している様子を見て、専門分野で活躍しスタッフや患者さんの役に立てるのは素敵だなと憧れた記憶があります。入職して、あっという間の毎日でしたが、糖尿病内分泌内科への部署異動で糖尿病看護の楽しさを教えてくれる先輩達と出会い、患者さんを担当するうちに興味を持つようになりました。

糖尿病看護は、患者さんの生活史や病気のとらえ方をしっかり聴くことが大切です。「血糖値が高い」、その裏にストレスやその家族の食文化、関係性等、様々な要因が隠れていることを知り、その心理や疾患について詳しく学びたいと思い、配属して2年目に日本糖尿病療養指導士を取得しました。その後も様々な診療科を経験しましたが、好きな分野でさらに専門性を高めたい、と思い糖尿病看護認定看護師を目指しました。



・認定看護師として活動していること

私は主に病棟所属で勤務していますが、活動日には先輩の糖尿病看護認定看護師と共同し、糖尿病内分泌内科外来で療養指導やフットケアを行ったり、他病棟の患者さんへの面談や指導等を行っています。また、院内に糖尿病診療やケアの質を高めることを目的とした糖尿病療養支援委員会という委員会があります。そのメンバーとして、マニュアルの見直し、講演会の企画、院内ラウンドやインシデント予防のための取り組みを行っています。



・認定看護師として大切にしていること

糖尿病看護の実践では、患者さんや家族から話を聴き、その方がどのように病気と付き合い、生活をしているか理解することがとても重要です。中には医療者が驚くような生活の工夫や努力をされている方、認識の違いで思わぬ健康法を行っている方がいます。日々、患者さんやその家族から学ぶことばかりです。また、看護師だけでなく医師やメディカルスタッフと十分情報共有されることが患者さんにとってより良い療養支援につながるため、看護師がその調整役となれるよう支援を心掛けています。今後も糖尿病患者さんが病気から持たれるマイナスのイメージ＝スティグマを払拭し、自分らしく病気とつきあって生活できるようにサポートしていきたいと考えています。



世界糖尿病デー イベントの様子